

会議議事録

事業名	令和7年度「職業実践専門課程等を通じた専修学校の質保証・向上の推進」事業 (3)教職員の資質能力向上の推進① 効果的な教育成果の公開方法等に関する支援体制づくりの推進
代表校	一般社団法人全国専門学校教育研究会

会議名	第4回教職員実施委員会
開催日時	令和7年12月15日(月) 10:00~12:00
場所	オンライン
出席者	<p>委員：泉田 優、佐藤 善邦、及川 源太、八木 信幸、 石田 哲也、田中 良、藤井 貴志、足立 隆、 岩村 聡志</p> <p style="text-align: right;">計9名</p> <p>請負業者：飯塚 正成</p> <p style="text-align: right;">計1名</p> <p>オブザーバー：岡村 慎一</p> <p style="text-align: right;">計1名</p> <p style="text-align: right;"><u>合計11名</u></p>
議題等	<p>1. 開催概要</p> <p>本委員会は、今年度実施したSD研修（東京会場・福岡会場）の振り返りを主目的として開催された。会議はオンラインを中心としたハイブリッド形式で実施され、研修実施に関わった委員・講師・事務局等が参加した。</p> <p>2. SD研修（東京会場）の振り返り</p> <p>東京会場では、12月初旬に2日間構成でSD研修を実施した。1日目は中期事業計画に関する講義を中心に行い、2日目はその内容を踏まえたワーク中心の構成とした。</p> <p>参加者数は1日目21名、2日目16名で、アンケートは両日とも全員から回収できた。アンケート結果では、全体として理解度・満足度ともに高く、特に「他校との意見交換ができた点」「具体的な事例を通じた学び」が高く評価された。一方で、「スケジュールがタイトであった」「グループワークの時間をもう少し確保してほしい」といった意見も複数見られた。</p> <p>改善点としては、事前課題や事前インプットを設定し、研修当日は意見交換や自校への落とし込みにより多くの時間を割く構成が望ましいとの指摘があった。また、2日間構成の場合、初日参加者が2</p>

日目に減少する傾向が見られたことから、開催案内時点で2日間参加を前提とする設計も検討課題として挙げられた。

3. SD研修（福岡会場）の振り返り

福岡会場でも東京会場と同様の内容で研修を実施した。1日目の参加者は17名、2日目は14名で、アンケート回収率はいずれも100%であった。理解度・満足度は非常に高く、講義とワークを通じて内容を具体的に理解できた点が評価された。

一方で、反省点として、文部科学省関係者による講義資料が事前配布できていなかった点が挙げられた。講義中に資料の所在が分からず戸惑う参加者がいたことから、今後は資料配布のタイミングや事前確認を徹底する必要があるとの認識が共有された。

また、研修全体として内容が充実している反面、情報量が多く時間が不足気味であるとの意見もあり、今後は時間配分や実施日数の再検討が必要との指摘があった。

4. 講師・ファシリテーションに関する所感

講義については、分かりやすい説明と具体例が参加者の理解を深めていたとの評価が多く、特に冒頭の自己紹介や導入部分が場の雰囲気づくりに効果的であったとの意見が出された。

2日目のワークでは、仮想の学校設定を用いたグループワークが、異なる立場の参加者同士でも議論しやすく、合意形成プロセスを体感できた点が評価された。一方、東京会場ではワーク項目が多く、やや消化不良感があったとの自己評価も共有され、福岡会場では重要ポイントに絞ったことで議論が深まったとの報告があった。

5. アンケート設問に関する課題

アンケート項目の一部について、「是正・改善の余地があるか」という設問の意図と、回答者の受け取り方にずれがあった可能性が指摘された。設問は研修内容やガイドライン自体への改善意見を求める意図であったが、回答者は自校の改善課題として回答しているケースが多く見受けられた。今後は、設問の表現をより明確にする必要があるとの認識が共有された。

6. 事業全体の総括と今後

本年度は、東京・福岡両会場において、計画していたSD研修を大きな支障なく実施することができた。全体として満足度は高く、事業目的である普及・啓発の面では一定の成果があったと評価された。

	<p>本事業は3か年事業の区切りの年度にあたり、今後はこれまでの成果を総括したうえで、成果報告の取りまとめを行う方針が確認された。成果報告については、例年どおり動画形式での公開を基本とし、あわせて報告資料を作成・公開する方向で検討を進めることとされた。</p> <p>また、来年度以降、外部評価制度の本格化を見据え、本研修で得られた知見をどのように継続・普及させていくかが今後の課題であり、最終報告においてもその方向性を示す必要があるとの認識が共有された。</p> <p>7. 次回委員会 令和8年2月3日(火) 15:00~17:00 学校法人龍馬学園</p>

以上